

日本応用老年学会メールマガジンは、日本応用老年学会会員・関係者にむけて日本応用老年学会事務局が毎月発行しております。

東日本大震災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

おひとりでも多くの方の安全と、一日でも早い復旧をお祈り申し上げます。

日本応用老年学会 理事長 柴田 博

— 目次 —

【1】ホームページ NEW !

- 「関連出版物・書籍紹介」更新
- 「SAG-J 広場」更新

【2】『ふれあいケア』連載コーナー「老い考」

1. 「老年学とは」 柴田 博(全国社会福祉協議会:2010年11月)

-----  
-----  
【1】 ホームページ NEW !

- 「関連出版物・書籍紹介」更新  
「認知症の個人差」

※詳細はこちらから  
学会 HP「関連出版物」

<http://www.sag-j.org/books/>

- 「SAG-J 広場」更新

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」平成 23 年度研究開発プロジェクト提案募集のお知らせ。(JST 社会技術研究開発センター)

ILSI Japan 30 周年記念第6回「栄養とエイジング」国際会議“超高齢社会のウェルネスー食料供給から食行動まで”(ILSI Japan 特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構)

※詳細はこちらから  
学会 HP「関連出版物」

<http://www.sag-j.org/community/>

## 【2】『ふれあいケア』連載コーナー「老い考」(全6回)

社会福祉法人 全国社会福祉協議会, 2010年11月

### 1. 老年学とは : 日本応用老年学会理事長 柴田 博

まだ、一般には馴染みがあるとはいえませんが、老年学という学問があります。これの元となった英語はジェロントロジー(Gerontology)といいます。この英語の語源のほうも1903年に生まれたばかりですから、まだ百年の歴史しかもっていません。

この老年学の特徴は学際性ということになります。この学際性ということばも広辞苑にはじめて登場したのが1983年のことですから、生まれてホヤホヤということになります。

学際性とは、さまざまな学問が協力し合って一つの学問領域をつくるということを意味します。当然ですが、学問の間の壁を取り払っていくことをも意味します。

このような学問が20世紀に登場するにはわけがありました。ご承知のように、ルネサンス以降、近代的な学問が大きく花開くことになりました。ギリシア時代の精神を取り戻すことを合言葉に、中世暗黒時代の学問の遅れを一挙に取り戻すため必死の努力が開始されたのです。

しかし、あまり先を急ぎ過ぎたための弊害も出てきました。デカルトに代表される心身二元論もその一つです。人間の精神を扱うと宗教に介入されて自由に研究できないから、とりあえず身体の方のみを扱おうというわけです。

精神を棚上げしてしまうと、身体は機械のようなものだという考えが生まれました。解剖学をはじめ、これはこれなりに、学問の発展にインパクトを与えました。しかし、人間の身体を機械の部分のように細かくみることにばかり気を奪われているうちに、人間全体をみる視点が失われてきたのです。

精神と身体を統合的にとらえる方法も確立せず、学問は、次第にタテ割りのようになっていったのです。

19世紀に入ると、そういう学問の潮流に反省が生まれ、20世紀に入ると、統合的な学問が開花するようになったのです。老年学はその先駆けですが、医学における心身医学も、このコンセプトの元に誕生したといえるでしょう。その後、健康心理学という学問も市民権を得るに至りました。

オーソドックスにみた場合、老年学は次のようなことを課題としています。

- (1)人間がどのように加齢変化していくかを身体的、精神的、社会的な側面から研究する
- (2)日本の中高年集団のかかえている諸問題—健康、精神、生活(経済力も含め)など特定し、施策や手立てづくりに貢献する
- (3)人文学である、哲学、宗教、歴史、文学からのアプローチ
- (4)以上のような研究の成果を社会に還元するための応用の研究

筆者はこれに加え、世代間問題の解決のための研究が必要と感じています。事実、アメリカの老年学の研究者の中には、世代間問題に取り組んでいる人びとが少なくありません。

日本の老年学においては、(3)に挙げた人文学分野の研究が遅れています。社会老年学を扱う学会が半世紀も「日本老年社会科学会」と名のつきました。学会に科学という名が冠せられてきたため、人文学の研究の参入を

阻んできたのです。

(4)の応用も遅れています。この分野には、初等、高等、生涯などの教育の課題が入ります。また、シニアマーケットの開拓やシニア向けサービス・商品の開発などの産業老年学も含まれます。筆者は2006年、日本応用老年学会(URL, <http://www.sag-j.org>)をスタートさせ、目下理事長として発展に努力しています。

出典：ふれあいケア，社会福祉法人全国社会福祉協議会，2010年11月，  
「第7回 老い考」

.....  
以上

- 
- ・ 内容、記事に対するご意見、ご感想、ご要望などは、  
日本応用老年学会「E-mail : [info@sag-j.org](mailto:info@sag-j.org) 」までご連絡  
お願いいたします。
  - ・ このメールマガジンは、日本応用老年学会会員・関係者の  
皆さまに配信しております。  
配信の停止は「E-mail : [info@sag-j.org](mailto:info@sag-j.org) 」までご連絡お願い  
いたします。

---

編集・発行: 日本応用老年学会事務局  
(掲載記事の無断転載を禁じます)

---

日本応用老年学会事務局  
〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター  
研究所 自立促進と介護予防研究チーム内  
TEL : 03-3471-2370  
E-mail: [info@sag-j.org](mailto:info@sag-j.org)  
日本応用老年学会ホームページ  
<http://www.sag-j.org/>

---